

玉造小劇店配給芝居—文化庁芸術祭優秀賞(主演:みやなほ)受賞作品

おもてなし

日本は本当に

「おもてなし」の国なのか?



バブル時代、湯水のように金を使うことが接待だと定義付け
てしまい、ファーストフードやコンビニの
過剰サービスを「おもてなし」だと勘違いし
ている若者が横行する日本。誕生日にプレゼントをもらうのが
当たり前で、クリスマスにサンタが来ないと不幸だと感じ、毎月
のように行事がないと不安になる日本人。

私たちが本当に持って成され、持て成しているのでしょうか?
今回再演する「おもてなし」の世界は、かつての大阪船場を
舞台に、とある豪商の妾であった芳崎兼という女性の半生を
描いた作品です。

昔の船場と言えば、旦那衆はしきたり上「おもてなし」に金
払いを厭いませんでした。自分の評判を落とすからでしょう。
が、時には抜け穴に頼らなくてはならないことも。

今日も、兼のところには「三女の披露宴の料理を、見た目は
派手なままにして、中身を儉約できないか?」などというワケ
あり、傷ありの商人が密かに尋ねて来ています。数百年続いた
船場の商人たちの意気地と駆け引き。華やかな「おもてなし」
の裏で、知恵を絞った「始末」の極意が、兼を中心に繰り広げ
られて行く様は、人間人間の人生の物語でもあります。

現代の大阪弁とは少し違う船場弁の美しい響きと、女優
たちの艶やかな衣裳も話題を呼び、主演のみやなほおこが
2014年度芸術祭優秀賞を受賞した「おもてなし」待望
の再演です。

お見逃しなく!



わかぎ魚心(役者・作家・演出家)

大阪府出身。関西小劇場界の老舗リリパットアーミーIIの二代目座長。芝居制作処、玉造小劇店の主宰。大阪弁のオリジナル人情劇を数多く手がけている。2000年に大阪市からきらめき賞、2001年上演の「お祝い」で大阪舞台芸術奨励賞、2012年に「紅姉妹」でバックアップ演劇賞を受賞。歌舞伎舞踊「たのきゅう」の脚本・衣裳・演出や新作狂言「わちゃわちゃ」の作・衣裳・出演も担当し、古典への造詣の深さも有名。その他多くの脚本、演出を手がける。またテレビのコメンテーターや、NHKで放映中の『リトル・チャロ』シリーズの原作、エッセイストとしても有名。



STAFF

舞台監督=武吉浩二(Quantum Leap*)

音楽=佐藤心(スタジオ・シン)

衣裳=妹妹

制作=中村祐子(玉造小劇店)

舞台美術=浦野正之

音響効果=三好里美(スタジオ・シン)

小道具=上田商会

制作協力=岡本康子(Trash2)、島尾朋子、TBSサービス

照明=高山晴彦/照明オペ=千原悦子

大道具=アーティストックポイント

宣伝美術・画=東 學(188)

東海市公演制作=中嶋沙弥奈(童司カンパニー)

芸術総監督おすすめコメント

いわゆる“演劇”を観て感動した事も無かった私がわかぎ作品に触れ「こんな演劇があったんだ!」と感激し、わかぎさんになが〜い感想をお送りしたのは3年前のことです。あくまで私見ですが、わかぎさんの作品の素晴らしさは、間(ま)や緩急など音楽的でさえあるテンポ感、決して押しつけない、細部積み上げ“醸造スタイル”の展開とその解決(あえて未解決という手法も有り)、キャストिंगの的確さ等々。そして集約して一言で言うと「とても自然」(これは最高の賛辞の積もりですが)。わかぎ作品の舞台には血が通い、体温のある人物がいて、空気の匂いもする、あたかもどこかの日常を切り取ったかの様なのです。この「おもてなし」も勿論同様です。さあ、どうぞわかぎワールドをご堪能ください!

東海市芸術劇場芸術総監督 安江正也

劇場インフォメーション

名フィル 夏のファミリー・コンサート 「あの夏へ」

2017年8月27日(日) 14:15 開場 / 15:00 開演 大ホール

S席 ¥4,500 A席 ¥4,000 小中高生 ¥1,000

[発売日] 先行:2017年5月13日(土) / 一般:2017年5月20日(土)

出演:竹本泰蔵(指揮)、麻衣(歌手)、名古屋フィルハーモニー交響楽団

プログラム:久石譲/「千と千尋の神隠し」より「あの夏へ」、
オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」ほか

